

警察庁のまとめによると、2019年上半期（1月から6月）の刑法犯の認知件数は36万3846件で、前年と比べ3万4581件減少し、戦後最少となりました。

このうち多

くを占める窃盗犯は25万7

183件で、2万5658件減少しました。その内訳は、侵入盗が2万7857件、乗り物盗が8万5082件、非侵入盗が14万4244件でした。手口別で数が多いものは、自転車盗

刑法犯認知件数は戦後最少

が7万5531件、万引きが4万8163件、車上ねらいが1万9458件、置き引きが1万1507件の順でした。いずれも前年に比べると減少していますが、依然として数多く発生

しています。

刑法犯が減少している背景に

は、警察の取締まりや行政機関、民間団体の防犯活動が挙げられます。今後も官民一体のさらなる取り組みが求められます。

防犯一口メモ